

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02680

研究課題名(和文) 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究

研究課題名(英文) Comparative Research on Graduate Education and Academic Degree System in Late-comer Countries

研究代表者

南部 広孝 (Nanbu, Hirotaka)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：70301306

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代的な高等教育制度を先進国から移植した国々に(後発国)を対象とし、各国における大学院教育及び学位制度の導入と変容の過程及び近年の改革動向を分析することを通じて、それぞれの国における制度の導入過程や現行制度の異同を明らかにした。また、近年の改革として、一方では入学や養成課程に関する管理の強化を含む質の向上が図られ、他方では制度の柔軟化の模索や国際通用性の強化なども見られることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、「後発国」における大学院教育や学位制度の導入や定着・変容の過程、現状などについて分析し、その成果を中間報告書(5冊)及び最終報告書により公表した。こうした取り組みを通じて、わが国でこれまで大学院教育や学位制度に関して十分には知られていなかった国々における制度に関する情報を広く共有することができた。このことは、高等教育の国際比較における新たな基盤を提供するとともに、ここで対象とした国々との間で高等教育交流を展開する際に参考になるという点で実践的な意義も有している。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to clarify the similarities and differences among introduction, current situation and recent reform trend of graduate education and academic degree in the “late-comer countries”. In this project, the “late-comer countries” are defined as the countries that have introduced modern higher education system from early-developed countries. After introduction of modern system of graduate education and academic degree, these systems have changed to match the social situation in every country. As recent reform, some countries intend to improve the quality through strengthening the management of enrollment and curriculum, and some countries try to make their systems more flexible and to increase the extent for the degree to be passable internationally.

研究分野：比較教育学

キーワード：教育学 大学院教育 学位制度 後発国

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、世界各国・地域(以下、国と略)で進められている高等教育改革には、規模の拡大を前提として、国際化・グローバル化の進展によるその制度や内容の国際通用性の向上(共通性)と、国際競争力を強化する手段としての他国より抜きこんでた制度の導入や、当該国の独自性を強調する制度の整備(相違性)の両方が共時的に存在している。どちらの指向性を有する改革でも、各国の歴史的条件や社会的現実の相違によって、選択可能な方向性や内容は異なるものとなる。

(2) 多くの国々には、高等教育の拡大や整備、改革の中心は学士課程段階に置かれているが、わが国で「知識基盤社会」への移行や科学技術創造立国の実現のため大学院における人材養成機能の強化に向けた取り組みが実施されているように、大学院教育の整備拡充も重要な政策課題として取り上げられるようになってきている。具体的には、一方では当該社会で必要とされる高度人材の養成強化が求められ、同時に、グローバル化の進展等に伴って学位の国際的通用性に対する要請が高まり、国際的な水準での教育研究機能のさらなる強化や学位の質保証がめざされている。こうした傾向は、近代的高等教育制度を形成した先進国で生じているのみならず、それを他国から取り入れて整えた国々に(以下、「後発国」と総称)でも見て取ることができる。

(3) わが国ではこうした後発国の大学院教育や学位制度を扱った先行研究はわずかである。諸外国の大学院教育に関する比較研究としては市川・喜多村(1995)、江原・馬越(2004)、広島大学高等教育研究開発センター(2010)などがある。しかし対象は欧米諸国が中心であり、それ以外では中国や韓国が取り上げられる程度である。国別の研究でも、中国に関する南部(2002)や台湾についての小川・南部(2008)、東アジア諸国の大学院入学者選抜に注目した南部(2016)などはあるが、それ以外の国に関しては、高等教育全体に関する記述の中で簡単な言及はあるとしても主たる分析の対象とされることは非常に少ない。学位制度についても、大学評価・学位授与機構の研究報告(2010)や大学改革支援・学位授与機構の研究報告(2016)といった国際比較研究はあるが、わが国を除けば、やはりせいぜい後者の研究で中国と韓国が加えられているのみである。

(4) そこで、そうした大学院教育及び学位制度が後発国でどのように導入され、その後どのように変容してきているのかを分析すれば、それぞれの国における大学院教育及び学位制度の特徴やその異同をより明確にするとともに、大学院教育及び学位制度の発展や改革の世界的な動向を明らかにすることができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、いわゆる後発国において大学院教育及び学位制度がどのように導入され、その後どのように変容しているのかを分析することを通じて、各国における制度の特徴やその異同を明らかにするとともに、大学院教育及び学位制度の導入・変容のパターンを類型化することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、後発国における大学院教育と学位制度の導入と変容は、一般的には次のように進んできたと仮定した(図1)を参照いただきたい。すなわち、これらの国では制度の導入にあたって先進国で形成されていた既存の制度が自発的か強制的かはともかくとして移植され、その後各国の制度としてふさわしいものとなるよう土着化が進められる。そして近年になると、グローバル化や地域共同体(ASEAN など)による共通化などの影響により国際化に向けた変容が生じたり、当該社会の変化に適応するためさらなる土着化が進められたりしている。国際化には、国境を越えた高等教育の展開という新たな現象も含まれる。ただし、こうした変容の過程は各国の条件や社会的文脈、制度導入が開始された時期などによって異なっていることが予想される。また、大学院教育と学位制度は、例えばわが国の論文博士の存在などを考えるとわかるように、必ずしも一体的な制度を形成しているわけではないが、多くの場合学位の授与が大学院教育修了の時点で位置づけられていることから、本研究では両制度を総合的に分析することにした。

(2) 分析対象として主として取り上げる国は、東アジ

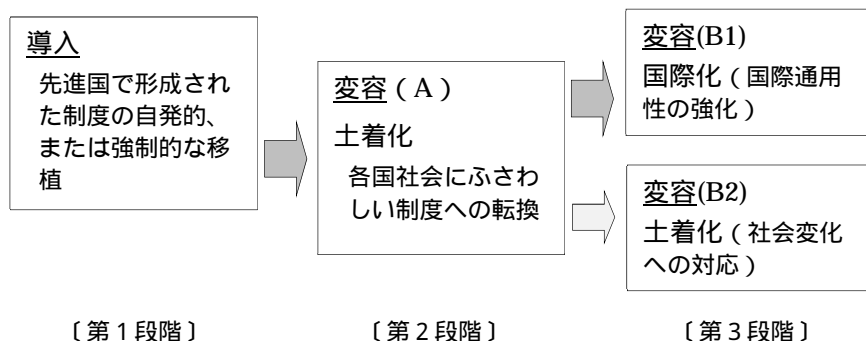


図1 大学院教育及び学位制度の変容モデル

ア、東南アジア、南アジア、中東、ラテンアメリカの各地域にある国々から、制度導入の時期や、制度導入の背景としての植民地経験の有無を含む歴史的条件、社会体制や人口規模を含む社会的条件などを考慮して選んだ。具体的には、東アジア地域では韓国、北朝鮮、中国、台湾など、東南アジア地域ではベトナム、シンガポールなど、南アジア地域ではインドなど、中東地域ではヨルダン、エジプトなど、そしてラテンアメリカ地域ではブラジル、キューバなどである。

(3) 各国の大学院教育及び学位制度には下位制度があることも本研究の前提である。そうした下位制度としては、大学院教育には、課程設置、修業年限、入学者選抜、教育課程、修了認定、指導教員などに関する制度があり、学位制度では学位の種類、学位授与権、学位授与手順、それから大学院教育との関係などに関わってより細かなしくみや規則からなる制度が整備されている。各国の分析にあたっては、具体的にはこれらの制度の変化に注目することとした。

(4) 本研究では、研究分担者及び研究協力者の参加を得ながら、文献資料の分析と対象国での聞き取り調査及び一次資料の収集によって進める計画とした。聞き取り調査の対象としては政府関係者、大学関係者、研究者などを予定し、調査内容としては、高等教育政策の変遷、形成当初の大学院教育及び学位制度の基本的構造、土着化に向けた制度変容の実態などを考えた。

4. 研究成果

(1) 1年目(平成29年度)には、対象とするいくつかの国における大学院入学者選抜に注目した。入学者選抜の方法は多様であり、修士課程段階において、全国統一の筆記試験が行われている国もあれば、外部の語学試験の成績などを用いる国、学生募集単位の自由度が大きい国もある。10か国・地域の大学院入学者選抜制度に関する資料を整理・訳出し、中間報告書(第1冊)として刊行した。資料が収載されている国・地域は具体的には、日本、韓国、中国、台湾、ベトナム、シンガポール、インド、ブータン、ヨルダン、ブラジルである。また、4年目(令和2年度)には、コロナ禍によって入学者選抜実施方法の変更が迫られたが、大学院入学者選抜試験を国家試験として実施している中国では、多くの高等教育機関では機関ごとに行う第2次試験がオンライン形式で実施された。そのため、従来の規定とともに同年の入学者選抜実施方法に関する規定を整理・訳出して、中間報告書(第4冊)(『中国の大学院入学者選抜方法に関する資料集2020年のオンラインによる実施を中心に』)として刊行した。この報告書では、個別の高等教育機関から出された具体的な通知も収載しており、オンラインでの試験の実施に関する手がかりを提示することにもつながっている。

(2) 2年目(平成30年度)には、学位制度に着目して研究を進めた。その成果は、『後発国における学位制度の研究』(高等教育研究叢書148、広島大学高等教育研究開発センター)としてまとめられているほか、関連資料を整理・訳出して収載した中間報告書(第2冊)を刊行した。前者では、7か国・地域(韓国、中国、台湾、ベトナム、インド、エジプト、ブラジル)における学位制度の変遷と、現在の制度概要、改革動向をまとめるとともに、比較的な考察を行った。そして、「後発国」の学位制度は、宗主国など他国の影響を受けながら、国の成立後しばらくして導入されたこと、学位の種類として学士、修士、博士に相当するものは各国で見られるが、国によってはそれ以外の学位が設定されていたり、大学以外の機関にも学位授与権が認められていたりすること、学位制度導入後、学位を授与する教育課程の量的拡大と質の向上に向けた取り組みが並行的に行われる傾向があること、学位の国際連携が進むと同時に、土着化の過程で独自性も見られるようになってきていることなどを明らかにした。また後者では、9か国・地域(日本、韓国、北朝鮮、中国、台湾、ベトナム、インド、エジプト、ブラジル)における学位制度に関する資料が含まれている。中国や韓国を除けば、これまでわが国では十分に紹介されてこなかった国・地域の学位制度に関する具体的な資料・情報を公表することができた。

(3) 3年目(令和元年度)には、大学院教育や学位制度に関する資料を訳出・整理した中間報告書(第3冊)を刊行した。この報告書では8か国・地域(韓国、中国、台湾、ベトナム、インド、ヨルダン、キューバ、ブラジル)を取り上げ、各国の法規や統計、訪問調査報告などを収載した。このうち統計は国によって得られる情報が異なるため、必ずしも同一の視点から比較できるわけではないが、どのような観点で区分された情報が公開されているのかという点も含めて、当該国・地域における大学院教育や学位に関する考え方を析出することができた。

(4) 最終年度となった4年目(令和2年度)には、新型コロナウイルス感染が世界的に広まったことを受けて、当初の計画を変更して文献調査に重点を置くことにし、またより多くの国・地域の学位と大学院教育の情報を共有することをめざした。それをふまえて刊行した中間報告書(第5冊)では、9か国・地域における資料の整理・訳出を行った。9か国・地域には、北朝鮮、中国、台湾、ベトナム、シンガポール、インド、ブラジルとともに、サウジアラビアとロシアが含まれている。

(5) 以上の研究成果をとりまとめて、最終報告書を刊行した。この報告書では、韓国、北朝鮮、中国、台湾、ベトナム、シンガポール、インド、エジプト、ブラジルの9か国・地域を取り上げ、これらの国々について、図1の枠組みに従って、制度の導入と歴史的な変遷、現在の制度や現状、近年の改革動向などが論じられている。全体としての結論は大要、次のようにまとめられる。まず、制度の導入においては、北朝鮮や中国、ベトナムが旧ソ連のモデルを参照する一方、韓国や台湾はアメリカのモデルを取り入れようとし、英領植民地だったインドを含め、エジプトやブラジルではヨーロッパの制度に範を取って制度が整えられていた。次に、その後の整備状況では、

大学院教育を実施し学位を授与する権限を有する機関の種類、入学者の選抜と養成のプロセス、論文審査を含む修了・学位取得の要件や手続き、大学院生を指導する教員の資格、学位の種類などに関して、国を越えた共通性もある程度認められる一方で、国によって異なる側面も存在している。また、中国やインドも含めているので対象とした国ぐにの間で大学院教育の絶対的な規模が大きく違うのは当然だが、例えば人口比での相対的な規模や課程別、専門分野別の構成割合が国によって異なることも見て取れる。そして、そうした現状をふまえて進められている近年の改革については、国によってはさらなる量的拡大がめざされつつ、一方では入学や養成課程に関する管理の強化を含む質の向上が図られ、他方では当該社会や学習者のニーズへの対応や学位の種類が多様化といった制度の柔軟化が模索されており、あわせて学位の国際通用性の強化、海外の大学との連携の強化や国際的な資格枠組みへの同調なども見られることが明らかになった。

<引用文献>

- 市川昭午・喜多村和之編『現代の大学院教育』玉川大学出版部、1995年。
- 江原武一・馬越徹編著『大学院の改革』東信堂、2004年。
- 小川佳万・南部広孝編『台湾の高等教育 - 現状と改革動向 - 』（高等教育研究叢書95）広島大学高等教育研究開発センター、2008年。
- 大学改革支援・学位授与機構『高等教育における職業教育と学位』（大学評価・学位授与機構研究報告第2号）大学改革支援・学位授与機構、2016年。
- 大学評価・学位授与機構『学位と大学』（大学評価・学位授与機構研究報告第1号）大学評価・学位授与機構、2010年。
- 南部広孝編『文革後中国における大学院教育』（高等教育研究叢書69）広島大学高等教育研究開発センター、2002年。
- 南部広孝『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較 - 中国・台湾・韓国・日本 - 』東信堂、2016年。
- 広島大学高等教育研究開発センター『特別教育研究経費「21世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策に関する研究」(平成20年度 - 24年度): 大学院教育の将来 - 世界の動向と日本の課題』広島大学高等教育研究開発センター、2010年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 No.622
2. 論文標題 中国の高等教育をめぐる近年の政策動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 49-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 南部広孝・洪瑜霜	4. 巻 6
2. 論文標題 中国高等教育におけるインターネット教育の導入と展開に関する一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域連携教育研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/JERRA_6_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 杉本均	4. 巻 -
2. 論文標題 トランスナショナル高等教育の新動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 けいはんな学研都市地域を軸とした教育システム輸出の形成（公益財団法人国際高等研究所、基幹プログラム報告書）	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 NAKAJIMA, Yusuke	4. 巻 -
2. 論文標題 Free Zone and International Branch Campuses in Dubai: Are they House of Cards?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Creating a Hub for Import / Export of the Educational System: Exploring the Possibility of Keihanna, an International Education City. (International Institute for Advanced Studies)	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 No.613
2. 論文標題 中国における留学生政策の変遷と近年の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 Vol.106
2. 論文標題 日中高等教育交流の歴史的変遷とこれからの展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 留学交流 (ウェブマガジン)	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田村徳子	4. 巻 26
2. 論文標題 ブラジルにおけるENEM (全国中等教育検定試験) の展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育制度学研究	6. 最初と最後の頁 220-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 39
2. 論文標題 中国における国家開放大学の展開に関する考察 - 広播電視大学からの転換に着目して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本生涯教育学会年報	6. 最初と最後の頁 289-304
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 Vol.90
2. 論文標題 中国の高等教育における卒業と学位	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 留学交流 (ウェブマガジン)	6. 最初と最後の頁 44-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 No.599
2. 論文標題 中国の「応用技術大学」をめぐる動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 No.601
2. 論文標題 中国高等教育の現段階	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島悠介	4. 巻 第3号
2. 論文標題 エジプト高等教育における国家教育質保証・適格認定機構の役割と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域連携教育研究	6. 最初と最後の頁 48-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島悠介・保道晴奈	4. 巻 第53号
2. 論文標題 アラブ・オープン大学のトランスナショナルな制度的展開に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪大谷大学紀要	6. 最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 50
2. 論文標題 日本における名誉教授制度の歴史的変遷と現状に関する考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学論集	6. 最初と最後の頁 51~63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南部広孝	4. 巻 595
2. 論文標題 中国における機関評価の動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IDE 現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 63~66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉本均	4. 巻 75
2. 論文標題 トランスナショナル高等教育と留学概念 留学生獲得戦略における位置づけ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 留学交流(ウェブマガジン)	6. 最初と最後の頁 1~8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島悠介	4. 巻 78
2. 論文標題 アラブ諸国における高等教育国際化 UAE、カタール、エジプトを事例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 留学交流（ウェブマガジン）	6. 最初と最後の頁 46～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Nanbu, H., Nakajima, Y.
2. 発表標題 Transformation of Undergraduate Education in East Asia
3. 学会等名 World Education Research Association 2019 Focal Meeting in Tokyo 10th Anniversary（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南部広孝
2. 発表標題 日中高等教育交流の歴史の変遷とこれからの展望
3. 学会等名 第二十届中国国際教育年会・日中高等教育フォーラム（テーマ「日中高等教育の連携と展望」）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島悠介
2. 発表標題 湾岸諸国における海外分校の展開 - UAE とカタールに着目して -
3. 学会等名 トランスナショナル高等教育研究会（JICA 研究所）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島悠介
2. 発表標題 ドバイにおけるフリーゾーンと海外分校 海外分校は「砂上の楼閣」なのか
3. 学会等名 けいはんな学研都市地域を軸とした教育システム輸出拠点の形成」2019年度第2回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島悠介
2. 発表標題 ドバイにおける外国大学分校の展開 インドの高等教育機関に焦点を当てて
3. 学会等名 第6回TINDAS研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島悠介
2. 発表標題 エジプト高等教育質保証における国家教育質保証・適格認定機構（NAQAAE）の役割・機能と課題
3. 学会等名 日本比較教育学会第53回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 南部広孝編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 160
3. 書名 中国の大学院入学者選抜方法に関する資料集 - 2020年のオンラインによる実施を中心に - (「後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究」中間報告書(第4冊))	

1. 著者名 南部広孝編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 250
3. 書名 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究（中間報告書（第5冊））	

1. 著者名 南部広孝編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 172
3. 書名 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究（最終報告書）	

1. 著者名 杉本均・南部広孝編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 比較教育学原論	

1. 著者名 南部広孝編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 246
3. 書名 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究（中間報告書（第3冊））	

1. 著者名 南部広孝編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 広島大学高等教育研究開発センター	5. 総ページ数 102
3. 書名 後発国における学位制度の研究（高等教育研究叢書148）	

1. 著者名 高見茂・杉本均・南部広孝編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 278
3. 書名 教育制度（教職教養講座第13巻）	

1. 著者名 南部広孝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 281
3. 書名 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究(中間報告書(第2冊))	

1. 著者名 南部広孝	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 311
3. 書名 後発国における大学院教育及び学位制度の導入と変容に関する比較研究(中間報告書(第1冊))	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉本 均 (Sugimoto Hitoshi) (50211983)	京都大学・教育学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	楠山 研 (Kusuyama Ken) (20452328)	武庫川女子大学・教育学部・准教授 (34517)	
研究分担者	石川 裕之 (Ishikawa Hiroyuki) (30512016)	京都ノートルダム女子大学・国際言語文化学部・准教授 (34312)	
研究分担者	田村 徳子 (Tamura Noriko) (10738850)	京都先端科学大学・バイオ環境学部・准教授 (34303)	
研究分担者	中島 悠介 (Nakajima Yusuke) (60780939)	大阪大谷大学・教育学部・准教授 (34414)	
研究分担者	渡辺 雅幸 (渡辺雅幸) (Watanabe Masayuki) (00780909)	びわこ学院大学・教育福祉学部・講師 (34206)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	関口 洋平 (Sekiguchi Yohei)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	全 京和 (Jeon Kyoungwha)		
研究協力者	廖 于晴 (Liao Yuching)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関